

景観形成整備方針づくりと 展示型ワークショップについて

1 歴史と文学のみち（山際通り）の現状と課題、取り組み

どんな通り？

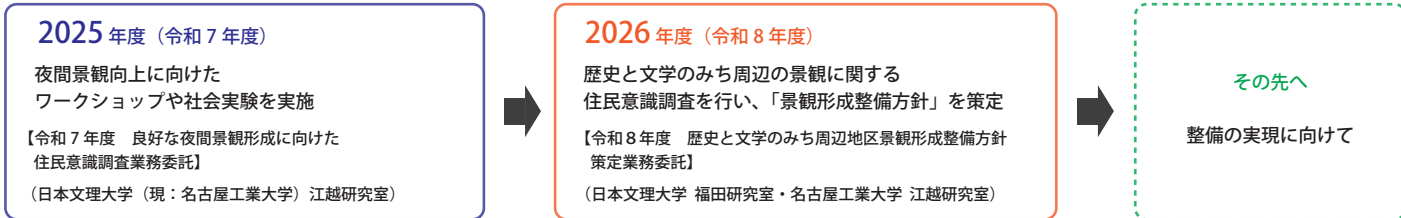
- 静寂な白壁の土塀が続き、江戸時代の城下町の面影を残す情緒豊かな通りです。
- 1980（昭和55）年～1987（昭和62）年にかけて、拡幅工事や黒松・桜の植栽、石張りの舗装等が行われ、現在の姿となりました。



昭和の整備から40年近くが経過し、次のような課題が挙げられます。

車道	歩道	夜間景観
<ul style="list-style-type: none">・ アスファルト区間と石畳区間が混在・ 景観の不調和や石畳の劣化、景観の統一性に課題	<ul style="list-style-type: none">・ 植栽が多く、幅員が狭い箇所がある・ 石畳の劣化も見られ、歩きにくさや安全性に課題	<ul style="list-style-type: none">・ 暗い箇所が多く、歴史的資源のライトアップが不足・ 歩行者の安全性や夜間の魅力向上が必要魅力

これまでの取り組みと今後の計画



2 これから、どう進めるの？

2026年度中の「景観形成整備方針」策定に向けて、3回のワークショップを行う予定です。

第1回 7月2日～5日

今の景観を見つめる

現在の景観への評価について、模型やパネルの展示を通して意見を収集します。

第2回 10月頃（予定）

整備のアイデアを考える

収集した意見をもとに作成した複数の整備方針案を示し、意見を収集します。

第3回 2月頃（予定）

方針をまとめる

第1回・第2回で集めた意見をもとに作成した整備方針案を展示します。

3 なぜ、「展示型ワークショップ」なの？

ワークショップの課題

アンケートや付箋を使うだけでは…

- 時間や場所の制約があり、参加者が限られがち
- 実際の景観を想像しながら意見を述べるのが難しい

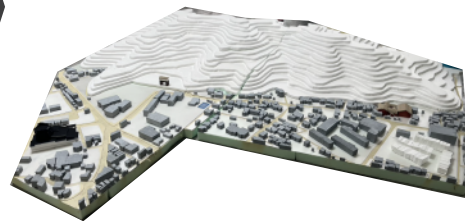
ワークショップとは？

- さまざまな人が参加し、頭だけでなく身体や五感を使って共同作業をしながら、相互に学習したり、[...] 成果を創造する行為・活動
- 特にまちづくりにおいては、人と人、人と現場のつながりを豊かに形成していくことを [...] 意見調整や意見決定の行為の両面について、同時に達成する方法

（まちづくり研究会編『基本まちづくり辞典まちづくり・都市計画の手引き』ぎょうせい 2000.12より）

だから、展示型ワークショップにしました

時間や参加者を限定せず、できるだけ多くの市民の皆様と意見交換を行うため、4日間にわたりパネルや大型の模型を展示し、自由に意見を加えてもらいます。



歴史と文学のみちのこれからを、みなさんと一緒に考えていけたらと思っています。

実践の参考になっている事例

神戸大学 榎橋修教授らの

大型模型を活用したワークショップでは、地域の人々がまちに抱く愛着など目に見えにくい価値を「見える化」する成果が報告されています。

（榎橋 修他『「失われた街」模型復元プロジェクト』建築雑誌 2015.8より）